

大津企業景況調査報告書

(第82回)

平成30年7月～9月期 実績

平成30年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成30年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 163 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 6 社	9 社	5 6 . 3 %
卸 売 業	1 5 社	1 2 社	8 0 . 0 %
小 売 業	4 1 社	2 5 社	6 1 . 0 %
サービス業	6 2 社	3 9 社	6 2 . 9 %
建 設 業	2 9 社	1 7 社	5 8 . 6 %
合 計	1 6 3 社	1 0 2 社	6 2 . 6 %

3. 調査期間

調査対象期間は平成 30 年 7 月～9 月とし、調査時点は平成 30 年 9 月 1 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は小幅悪化が続く。災害・貿易摩擦を懸念

平成30年7月～9月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期から▲4ポイント悪化して▲5となり小幅悪化が続いている。原油高、原材料費や人件費の上昇、運賃の高騰等を販売価格に転嫁が難しいこと等によるとみられる。業種別では、建設業が天候不順による工事遅れ等で悪化し、サービス業もマイナスが続いているが、製造業は内外の需要拡大から改善し、卸売業も改善した。小売業は前年並みまで改善した。人員不足感は再び高まっている。

先行きの業況判断DIは、▲4と悪化が続くとみている。上記に加えて自然災害や米中の貿易摩擦の影響等の懸念材料があり企業は先行きを慎重にみている。業種別では、製造業が貿易摩擦の影響等による悪化を見込んでおり、台風等の自然災害の消費への影響を懸念する小売業、サービス業は前年比マイナスを見込んでいる。一方、卸売業、建設業は改善を見込んでいる。製造業以外は深刻な人手不足が続くとみている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、小幅悪化が続く。建設業、サービス業が悪化

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期から▲4ポイント悪化して▲5となり小幅悪化が続いている。原油高、原材料費や人件費の上昇、運賃の高騰等を販売価格に転嫁できないこと等によるとみられる。業種別では、建設業、サービス業が悪化、製造業、卸小売業は改善した。

□ 売上DI（前年同期比）は、前年比小幅増加。製造業が大幅増加、卸小売業はマイナス続く

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、+1と前年比3ポイント増加した。業種別では製造業が大幅に増加した。建設業は減少した。卸小売業は猛暑や台風等の天候不順からマイナスが続くも、サービス業はインバウンド消費等で増加が続いた。

□ 採算DI（前年同期比）は、悪化に転じる。建設業はプラス維持。卸小売業は悪化

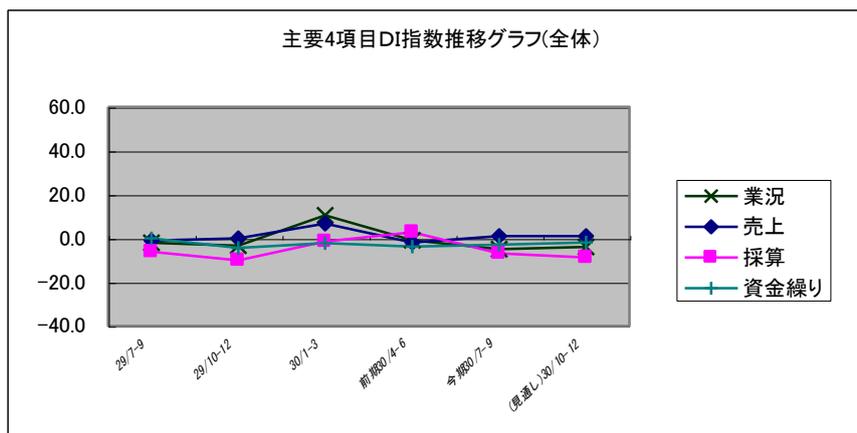
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、今四半期▲7と悪化に転じた。業種別では、建設業はプラスを維持し、製造業は前年並み。卸・小売・サービス業は悪化した。仕入価格や運賃の高騰等を十分販売価格に転嫁できていないためとみられる。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、やや悪化

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、今四半期▲3とやや悪化した。業種別では、建設業は改善したが、小売業、サービス業では悪化した。猛暑による客足の減少等が影響しているとみられる。

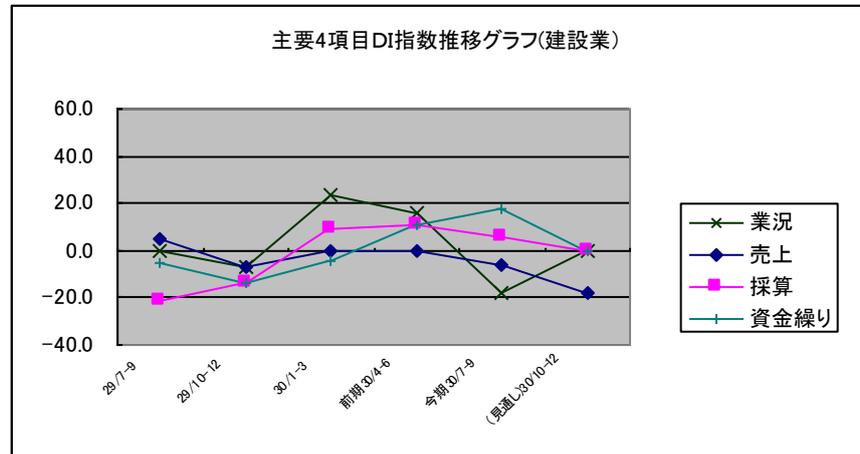
□ 従業員DI（前年同期比）は、人員不足感が続く。製造業以外は深刻な人手不足

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、今期+28と人員不足感が再び高まった。業種別にみると、製造業のみが過不足なしであるが、その他の業種は+30程度で深刻な状態になっている。どの業種でもロボットなど省力設備の導入や労働時間短縮による働き方改革、待遇改善等が課題になっている。



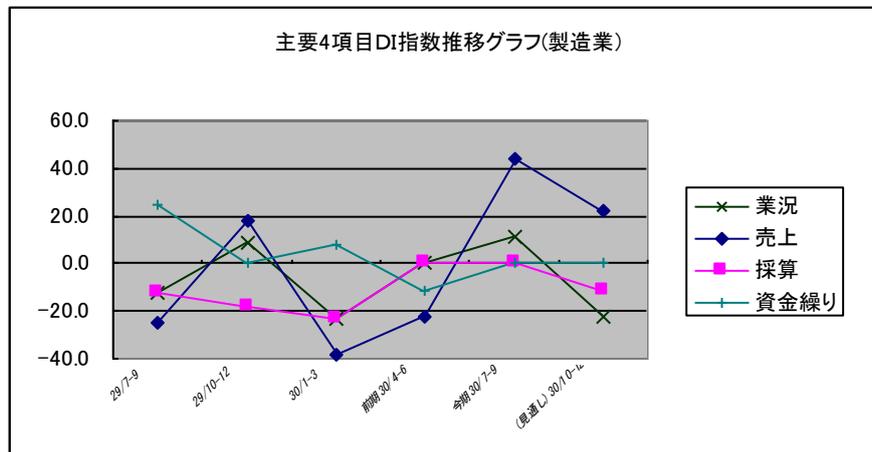
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+16 から今四半期は▲18 と大幅に悪化した。公共工事の減少や相次ぐ台風の影響による工期の遅れ等が原因とみられる。個別指標をみると「売上」は前四半期の±0 から今四半期は▲6 と減少し、「採算」が+11 から+6 へ減退した。「従業員」は+16 から+29 になり人手不足感が強まっている。



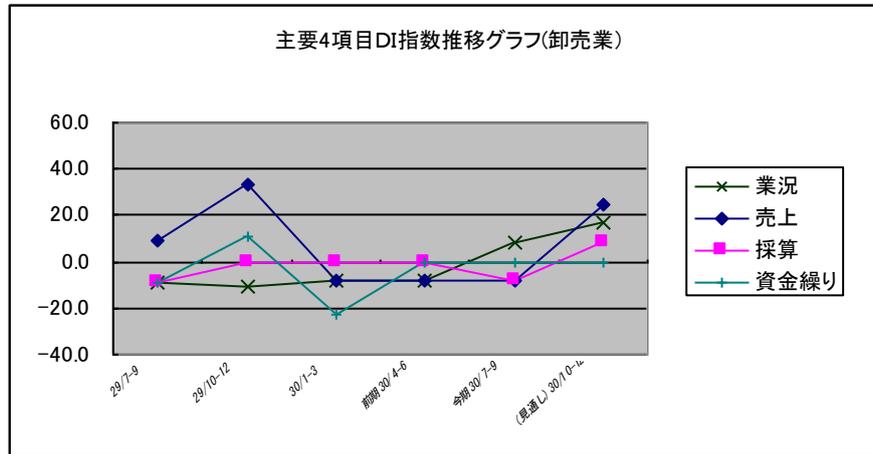
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期±0 から今四半期は+11 に良化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲22 から今四半期+44 と大幅に増加し、「採算水準」が前四半期の+22 から今四半期+33 に良化したことによる。「従業員」は前四半期の+22 の不足状況から今四半期は過不足なし±0 になった。省力設備の導入等が要因とみられる。



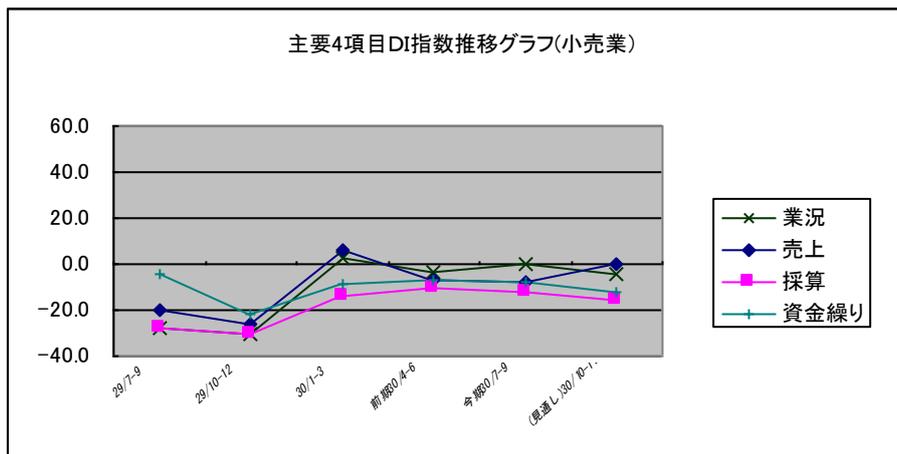
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲8 から今四半期は+8 と改善した。個別指標をみると、「売上」が前四半期も今四半期も▲8 と減少が続いているものの、「採算水準」が前四半期の+25 から今四半期は+33 と良化したことによるとみられる。「従業員」は前四半期の+25 から今四半期は+33 と再び人員不足が深刻になっている。



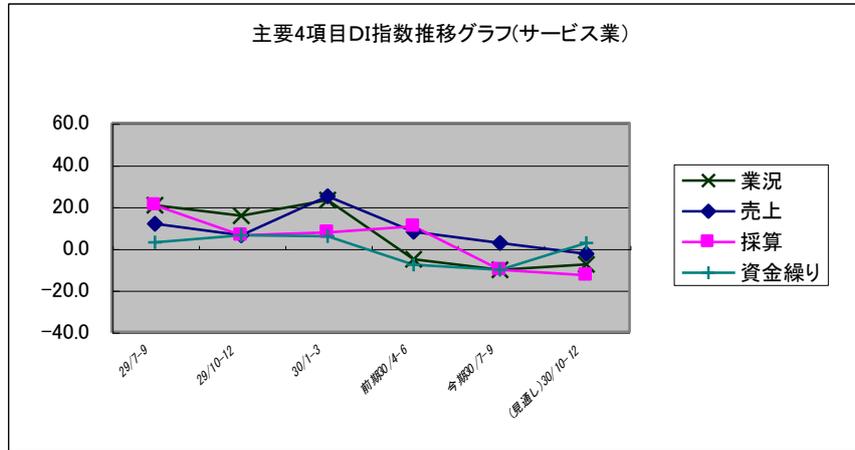
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲3 から今四半期は±0 と小幅改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲7 から今四半期は▲8 と減少が続いている。「採算」は▲10 から▲12 へ悪化した。「従業員」は+21 から+32 になり人員不足感が高まっている。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲5 から今四半期は▲10 と悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期+8 から今四半期+3 と増加幅が縮小し、「採算」は+11 から▲10 に悪化した。「従業員」は+24 から+31 になり人員不足感が高まっている。



来四半期（3ヵ月後）の「業況」DIは、今四半期の▲5 から▲4 へと悪化が続くとみている。個別指標をみると、「売上」は+1 から+1 でほぼ前年並みが続き、「採算」が▲7 から▲9 へ悪化すると見込んでいる。「従業員」は+28 の横ばいで人員不足は続く見込みである。

業種別「業況」DIでは、堅調であった製造業が貿易摩擦の影響等による悪化を見込んでおり、台風等の自然災害の消費への影響を懸念する小売業、サービス業は前年比マイナスを見込んでいる。一方、卸売業と、自然災害の復旧需要のある建設業は改善を見込んでいる。製造業以外は深刻な人手不足が続くとみている。

景気は緩やかな拡大基調にあるといわれてきたが、ここへきて原油高、原材料費や人件費の上昇、運賃の高騰等を販売価格に転嫁が難しいことに加えて、自然災害や米中の貿易摩擦の影響等の懸念材料があり企業は先行きを慎重にみている。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は33%で、3ヵ月前より9ポイント増加した。業種別にみると、製造業が最も高く78%、卸売業が33%、小売業が32%、建設業が29%、サービス業が26%と軒並み高い水準となった。

投資する企業の投資内容の割合は、「更新投資」が45%で最も多く、「合理化省力化」が18%である。うち製造業では30%が「合理化・省力化投資」で人手不足を補完する方針とみられる。「生産力増強」は前回12%であったが今回21%になった。卸売業の50%が生産力増強投資である。

投資方針は、「計画通り」が41%で、「景気により見直す」が38%となっている。強気な投資方針を保持しつつも、外部環境が変われば柔軟に対処するしたたかな姿勢がみられる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・ 原材料上昇。製作商品低下。生産設備老朽化。(製造業)
- ・ ガソリン販売量は減って来ますが、ガソリン税プラス消費税で価格が高くなる来年 10%になれば大変です。二重課税は無くして下さい。(小売業)
- ・ 産地直送の場合の運賃の値上げが仕入金額に影響する。良いものを作る気持ちがゆらぐ。ゆらぎながら先を見据えて一步前へ。付加価値の高い商品を作る事が自分たちの店の存在価値になる。時代が求めていると思います。(小売業)
- ・ 急に良い人材が確保できたが、まだまだ不足している。(小売業)
- ・ この期の暑さと高齢な顧客が多いため需要の減少も急増、先の見通しも少なく、メンテナンス・ホー仕事はあれど細かく小さくて経営上苦慮する。量力配分が目いっぱい。新しいニーズ・顧客や用途開発を指針に生活の元は仕事と目を引く商品代を考える。(小売業)
- ・ 北大阪地震・中四国の大雨・猛暑この結果、仕事の延期・空調機故障等から資金繰り、予定の変更等上半期の業績は一気に悪化している。(サービス業)
- ・ 猛暑で外出控え来店客が減少している。燃料費の上昇や実質賃金の伸び悩みで買い物行動が慎重さを増している。家計の節約志向が垣間見れる。(サービス業)
- ・ 毎週の台風で修理仕事増加、反面大型工事のスケジュール遅れる。(建設業)
- ・ 資金に余裕がない。(建設業)

以 上

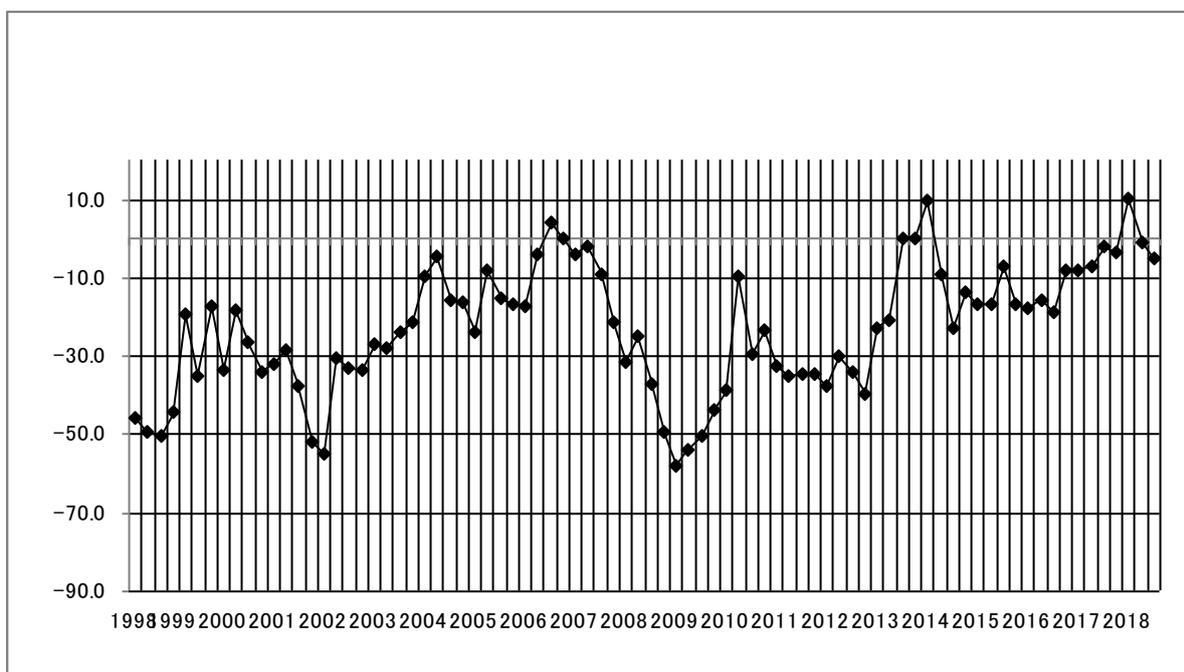
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲4.9	▲3.9	1.0	1.0	▲6.9	▲8.8
建 設 業	▲17.6	0.0	▲5.9	▲17.6	5.9	0.0
製 造 業	11.1	▲22.2	44.4	22.2	0.0	▲11.1
卸 売 業	8.3	16.7	▲8.3	25.0	▲8.3	8.3
小 売 業	0.0	▲4.0	▲8.0	0.0	▲12.0	▲16.0
サービス業	▲10.3	▲7.7	2.6	▲2.6	▲10.3	▲12.8
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	14.7	22.5	▲12.7	▲2.9	28.4	28.4
建 設 業	41.2	35.3	0.0	5.9	29.4	29.4
製 造 業	33.3	33.3	▲11.1	11.1	0.0	0.0
卸 売 業	33.3	66.7	▲16.7	16.7	33.3	33.3
小 売 業	▲4.0	4.0	▲20.0	▲20.0	32.0	32.0
サービス業	5.1	12.8	▲12.8	▲5.1	30.8	30.8
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	▲2.9	▲2.0	▲2.0	▲2.9	2.0	1.0
建設業	17.6	0.0	5.9	0.0	17.6	11.8
製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲8.0	▲12.0	▲8.0	▲8.0	▲8.0	▲8.0
サービス業	▲10.3	2.6	▲2.6	▲2.6	0.0	0.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>